

A-2. 「園庭探索団 一蜂がお山を作った! ふしぎ ふしぎ」 大野町保育園(石川県金沢市) <5歳児 7月>

ねらい 園庭の自然の変化に気づき、発見する喜び、好奇心、探究心を高める。

事例

◎場所の不思議

数人の子どもが、園庭の隅にしゃがんで「先生、こっち来てー!!」と呼ぶ声をした。「蜂、なんか山みたいの造ってるよ。」と言う。見ると、黒く3cm



ほどの蜂が穴から土を運び出し、山のように積み上げていた。その様子を見てみると、「何でこんな草ぼうぼうな所に穴掘るのかな?」と言う子がいたのに対し、「砂場の方が掘りやすいよ。」との声がきこえてきたので、「じゃあ、砂場と、園庭の真中と隅この砂掘りのくらべっこしようか。」と声をかけてみた。シャベルで砂場に穴を掘り、山を造ってみる。「あ、手でもすぐ掘れるよ。」と指で掘る子もいた。出来上がったところで、じょうろに水を入れ、山にかけてみた。すると、「あーあ」と子ども達。水をかけたことで山は崩れ、穴は広がって水がたまってしまったのだ。「すぐ掘れたけど、すぐ壊れたね。」「よし、真ん中は?」と園庭の真ん中を掘ってみるが、一粒一粒の砂が大きいかたいため、掘りにくい。「シャベルだったら掘れるけど、蜂の足だったら折れてしまいそう。」「次、隅っこ掘ってみよー!!」とシャベルや、指で掘りはじめ、「砂場みたいにやわらかくないね」「でも、真ん中みたいにかたすぎないし大丈夫だね」と話し合う声が聞かれた。よく見ると砂と小さな砂利がまざっていることがわかった。最後にじょうろの水をかけると、砂利や、周りの草のおかげで山や穴が崩れにくいことを知り、「なんか、3匹のこぶたの家みたい!」「ここが一番いいって知ってるのかな。」と蜂に感心する姿も見られた。

◎山の造り方の不思議

せせと山を作る蜂の様子を観察している子に「どうやって砂運んどう?」と聞いてみた。「なんか、あごに砂をはさんで運んどうよ。」「あ、足で積んだ砂崩しとる!!」とその様子を実演しながら

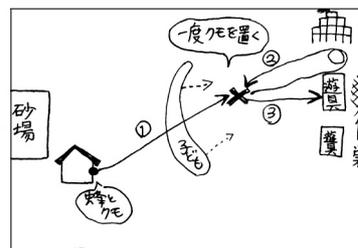


から教えてくれた。蜂は穴の中に入ると、小さな土を丸めてあごにはさみ、バックをしながらかから出ると、山になるような位置に土の玉を置き、足で玉を崩して

いる。子ども達もそれに気づき、「団子にしてあごにはさんでるよ!」「どうしたら団子が造れるのかな?」「ボンドみたいにくっつくものあるのかな。」等と興味津々な姿が見られた。「蜂って頭いー!!」「かっこいー!!」と感心していた。

◎蜂がクモを運んでいたよ! ふしぎ、ふしぎ

園庭の遊具の横に大きなクモが死んでおり、その周りを蜂が狙っているかのようにクルクルと歩いている。その様子を見て子どもや、保育士に気付くと、こっちを睨むように大きく歩き出す蜂の姿が見られた。子ども達が「蜂さっきから何してるの?」と見ていると、今度は尻を揺らした。「あ、お尻こんなふうにしてるよ!!」と真似をする子もいる。10~15分ほどの間、クモのそばを離れなかったが、急にクモの頭をあごにはさむと、やはり後ろ向きにバックをしながらすごいスピードでクモをひきずっていく。子ども達は「あ!!」と驚き、ついて行きながら、夢中で見ていた。(①)一度蜂はクモを離し、飛んだが、子ども達の方へは来ず、園庭の隅をクルッとまわると戻ってきた。(②)そしてクモをあごにはさむとまたすごいスピードで園庭の隅に向かっていった。子どもたちは、またそっとついて行きながら、「どこまで行くの?」「速いね!!」と興味津々に見入っていた。蜂が遊具に止まり、またクモを落とすと「頑張れ!頑張れ!」と応援する声もきかれた。(③)「どこに連れて行くのかなあ?」「あの穴の中に入れるんじゃない?」「じゃあ、あの穴って冷蔵庫みたいだね」等と話し合う姿が見られた。



今後の課題

園庭は、子どもたちが何回も探検してより詳しく観察することができ、共通理解ができる場所である。今回の活動は、偶然に起きた出来事だったが、「いつでも」「どこでも」「手軽」「楽しく分かる」素材をとりあげることが大切だと思う。今後も、観察する楽しさや、発見する喜びをみんなで共感し合いながら、小さな虫博士の育成を願うとともに、次はどんな偶然に出会えるのか期待している。

ポイント

身近な園庭に、自然のダイナミズムがあるのですね。その一部始終を子どもたちがどんな表情で追っていたのでしょうか。偶然できた出来事に時間をかけて、子どもの食いつくような興味を満たし、また、なぜ同じ場所に巣があるのかを問題提起するなど、子どもたちの驚きや感動を受けとめ、好奇心、探究心を深めています。